

昨日から夏休みのチャレンジ展示が行われている。1年生から順番にゆっくり見せてもらった。[作品には手を触れないでください]と書いてあったけれども、冊子になっているものは、内緒でページをめくって見させてもらった▼150作品あるので見応えは十分。子どもの顔を思い浮かべながら1時間ほど楽しく過ごした。おうちの方の支援がなくてはできないもの。自分の力でやり切ったもの。どの作品にも様々なプロセスがあるに違いない▼家で完成品を見てはいるが、あらためて展示されているのをみると、心地よい達成感を味わえる。何組かの保護者(親子)の方の表情には、達成感の笑顔がうかがえる▼耳に心地よく聞こえてきたのは、たくさんの作品を見ながら(わあ～、これすごいね～)というようなほかの子の作品を称賛する声。自分の作品ではないけれどもうれしい▼「来年は、これしようね。」そんな声も聞こえてくる。毎年このチャレンジの内容に頭を悩ます子も少なくはない。そんな子にとっては、このチャレンジ展示で、来年のヒントをもらえる絶好のチャンスである▼「いのち」と向き合った子。「自分自身」と向き合った子。「自らの願い」を叶えた子。「知的好奇心」が原動力となった子。「創作意欲」に満ち溢れた子。視覚的な完成品もあれば、臨場感ある過程が思いうかぶ報告もある。あなたのチャレンジに笑顔が見える。